

日本原子力標準委員会 リスク専門部会 PRA 品質確保分科会  
第 16 回会合議事録

日時：2017 年 4 月 18 日（火）13:30～16:30

場所：JANSI 第 4 会議室

出席者（敬称略）

委員：越塚主査（東大），成宮副主査（関電），岩谷（中電），  
浦野（原電），桐本（電中研），倉本（NEL），喜多（東電），  
曾根田（日立 GE），日高（TEPSYS），田中（MHI），  
藤井代理（東芝，小森），村田（JANSI） 12 名出席

常時参加者：野村（関電） 1 名出席

配付資料：

**RK4SC16-1**：第 15 回 PRA 品質確保分科会議事録案

**RK4SC16-2**：人事について

**RK4SC16-3**：共通用語の定義標準英訳の修正

**RK4SC16-4**：共通用語の定義標準の改定作業について

**RK4SC16-5**：PRA 品質確保標準改定案（V&V、構成管理）

**RK4SC16-6**：PRA 品質確保標準の改定検討（箇条 1～3）

**RK4SC16-7**：分科会スケジュール

参考資料：参考 1：PRA 品質確保分科会名簿

議事：

1. 定足数の確認

会議開始時点で、委員 14 名中 10 名が出席しており、本会議が議決に必要な定足数を満足していることが確認された。

2. 前回議事録確認（RK4SC16-1）

野村常時参加者より、RK4SC16-1 に基づき、第 15 回分科会の内容確認が行われた。一箇所を修正し、議事録を確定した。

3. 人事について（RK4SC16-2）

常時参加者の登録解除（1 名）について報告があった。

4. PRA 品質確保標準改定案（V&V、構成管理）（RK4SC16-5）

日高委員より、RK4SC16-5 に基づき、構成管理等の記載案について説明があった。箇条 4 c) の修正案については、更新管理と構成管理の元々の意味を再確認した後、文案を再提示することとした。また、附属書 G の序文については、構成要素をはっきりさせた上で修正することとした。

附属書 G の参照の仕方については、新知見の取り扱いとの関連で検討することとした。その他、修正箇所を確認した。また、言葉の選択で「インプット」にするか「入力」にするかについても検討することとした。

5. 共通用語の定義標準英訳の修正(RK4SC16-3)

桐本委員より、RK4SC16-3 に基づき、共通用語の定義標準英訳の修正について説明があった。

2.42 については、「independent」の位置を変更することとした。

単語の頭は全て大文字とすることとした。

定義する用語の記載順序については、日本語版の標準の並びのままとする。

6. 共通用語の定義標準の改定作業について(RK4SC16-4)

野村常時参加者より、**RK4SC16-4**に基づき、共通用語の定義標準の改定項目案および改定スケジュールについて説明があった。また、浦野委員より、個別項目についてのコメントが述べられた。

また、数ある標準の中からどの用語を取り上げるかについても問題提起があり、核燃施設の取り扱いも含め、なるべく広く取り上げるような形で抽出することとした。

この案にて、**PRA**活用検討タスクで議論することとした。

7. **PRA**品質確保標準の改定検討（箇条1～3）(RK4SC16-6)

野村常時参加者より、**RK4SC16-6**に基づき、箇条1～3について説明があった。藤井委員代理より、「1. 適用範囲」の確率論的リスク評価標準については、何らかの形で解説しておく必要があるとの意見が出された。

8. その他（次回日程等）

野村常時参加者より、**RK4SC16-7**に基づき、当面の分科会スケジュールについて報告があった。

共通用語標準の改定については日本語と英語の両版を、本年**12**月のリスク専門部会に本報告するスケジュールとした。それに伴い、**2014**年版の英訳については、作成しておくものの出版はせず、関係者内での情報共有に留めることとした。また、来年**2**月の**JCNRM**には、英語版のドラフトを提示する方向とした。

次回分科会は、**6/15**（木）**13:30**～、東大にて開催することとなった。

以上